

第4回三田市水道ビジョン懇話会  
第2次三田市水道ビジョンの骨子について



令和5年11月22日



# 目次

---

1 新水道ビジョンの位置付け

2 三田市水道をとりまく課題

3 新水道ビジョンの基本理念と将来像

4 新水道ビジョンの施策体系



# 目次

---

**1** 新水道ビジョンの位置付け

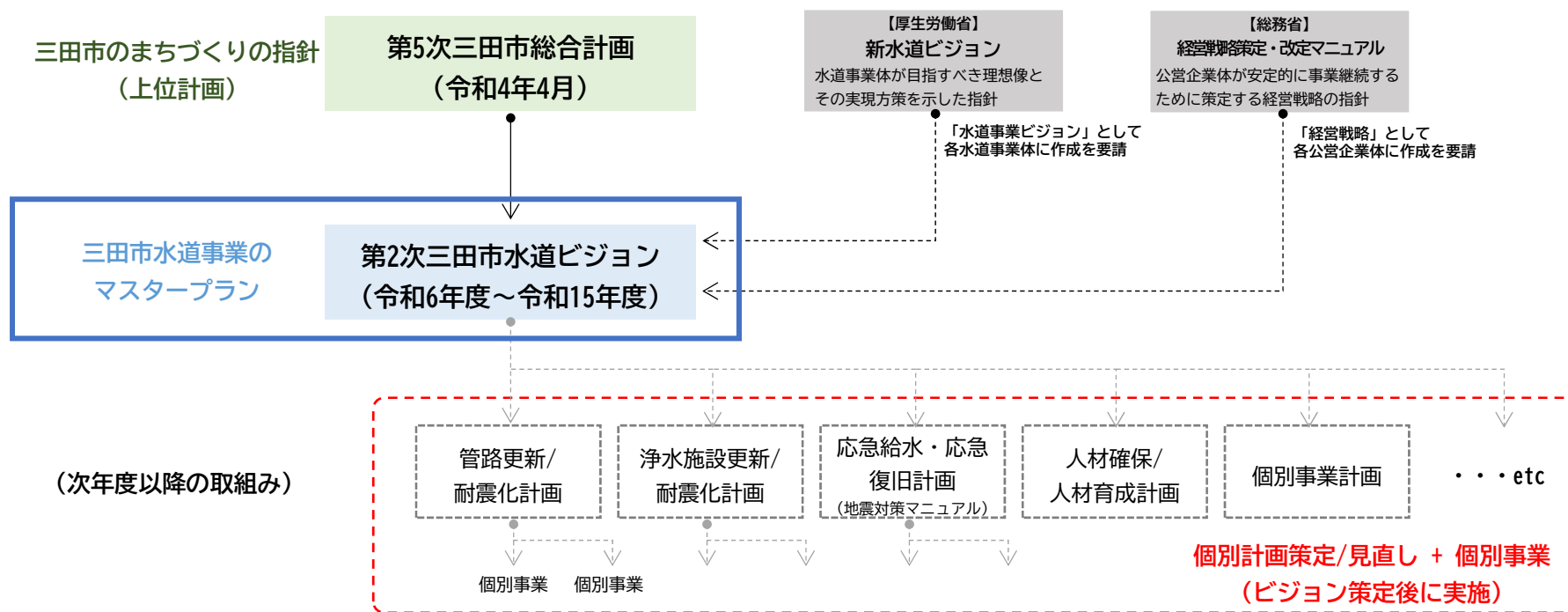
2 三田市水道をとりまく課題

3 新水道ビジョンの基本理念と将来像

4 新水道ビジョンの施策体系

# 1 新水道ビジョンの位置付け

- ✓ 第5次三田市総合計画（令和4年4月）を上位計画とし、長期的視点を踏まえた三田市水道の今後10年間（目標年次令和15年度）の運営方針や取組の方向性など、目指すべき将来像に向けた基本的な考え方を取りまとめた中長期計画（マスタープラン）として策定する。（なお、具体的な取組みの推進にあたっては、本ビジョンを踏まえ、各種個別計画（水安全計画、浄水施設長寿命化計画、管路更新・耐震化計画など）の策定・見直し等を行い実施）
- ✓ また、厚生労働省が新水道ビジョン（平成25年4月策定）を踏まえて各水道事業体に作成を要請している「水道事業ビジョン」、総務省が経営戦略策定・改定マニュアル（令和4年1月策定）を踏まえて各公営企業に作成を要請している「経営戦略」として位置付ける。





# 目次

---

1

新水道ビジョンの位置付け

2

三田市水道をとりまく課題

3

新水道ビジョンの基本理念と将来像

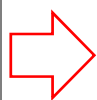
4

新水道ビジョンの施策体系

## 2 三田市水道をとりまく課題

### 主要課題01：急増する老朽化・水道施設への対応

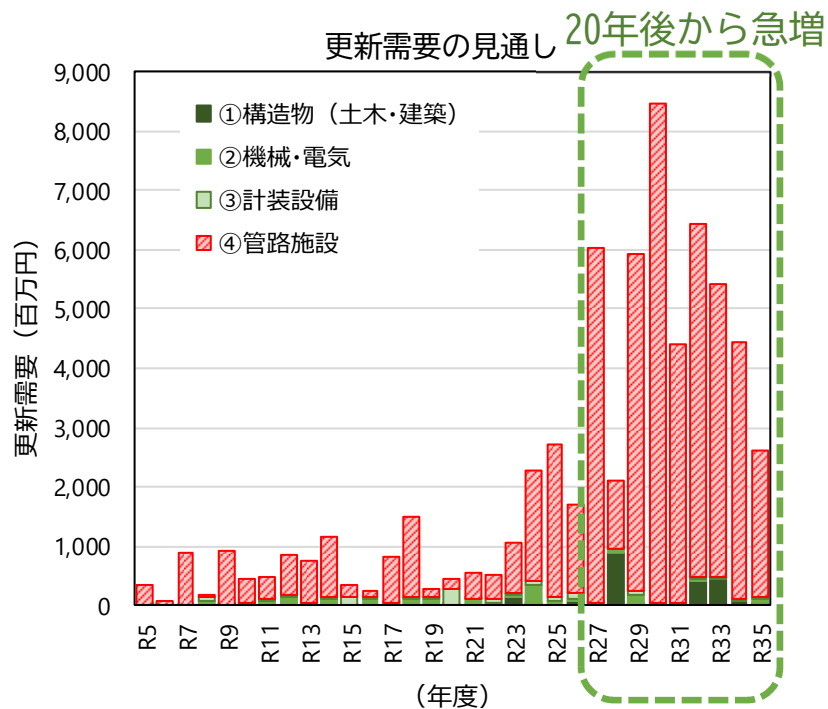
✓ 三田市ではニュータウン開発をはじめ一時期に整備した水道施設が一斉に老朽化し、その更新時期が20年後以降に集中する見通しである。一方、上記の老朽化・水道施設の更新整備を担う人員については、現状（令和5年5月1日現在、再任用職員・会計年度任用職員を除く）で22人と少なく、全体の約60%が50歳以上の職員と高齢化が進んでおり、技術継承の不安及び更新需要増加に対する人員不足が確実である。



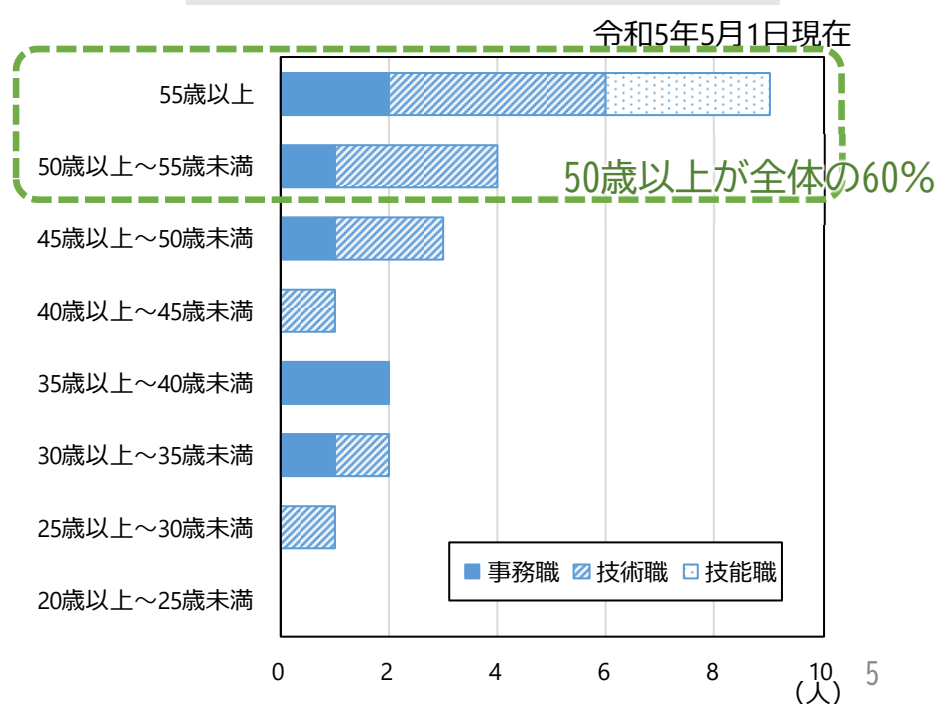
**施設の長寿命化（使い倒す）や施設規模の適正化（身の丈に合わせる）が必要です。**

**将来必要となる水道施設の更新・耐震化事業に対応できる執行体制が必要です。**

水道施設の更新需要



更新/耐震化事業を担う職員の高齢化/不足



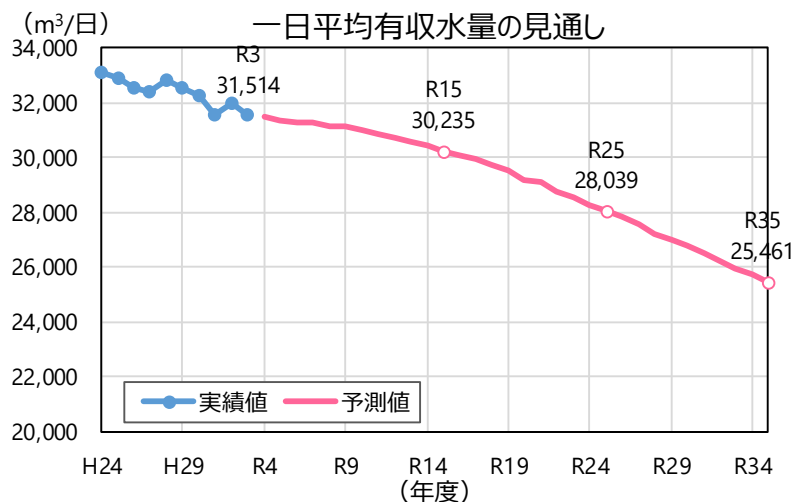
## 2 三田市水道をとりまく課題

### 主要課題02：人口減少に伴う水道料金収入減少への対応

- ✓ 今後、人口減少等に伴い、料金収入の基礎となる有収水量は30年間で19%減少する見通しである。
- ✓ 水道事業は装置産業であり、給水に必要な費用（総括原価）のうち、施設や管路などを整備した費用を回収するなどの固定費（減価償却費、支払利息、人件費など）の割合が高い一方で、料金体系では、水需要量に応じて得る収入（従量料金収入）が多く、水需要が減少した場合には経営状態が悪化することが懸念される。

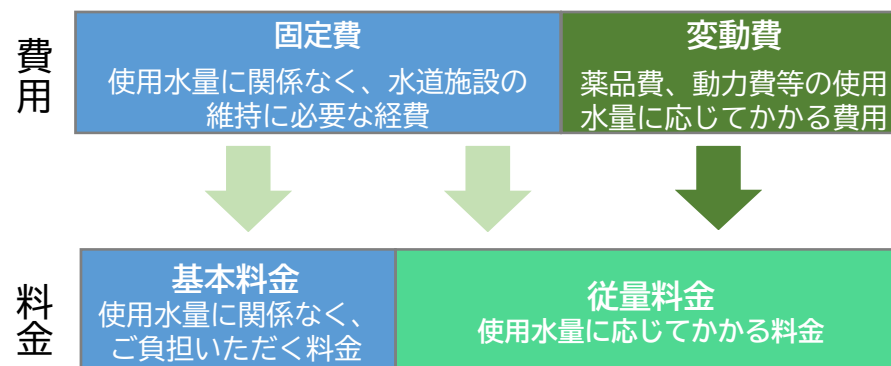
➡ **人口減少を見据えた長期的な観点から持続可能な料金体系のあり方について検討が必要です。**  
**三田市水道の課題をお客さまと共有し、理解促進につながるコミュニケーションの充実が必要です。**

人口減少に伴う水需要量の減少



今後 **30年間で19%減少**  
 (R3→R35)

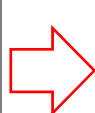
水道事業の料金構造（イメージ）



## 2 三田市水道をとりまく課題

### 主要課題03：地震、風水害など非常時の断水リスクへの対応

- ✓ 三田市地域防災計画によると、三田市に被害が想定される海溝型地震及び内陸活断層地震が複数想定されており、地震が発生すれば最大震度が4から6強の揺れが発生することが想定される。
- ✓ 三田市の現在の耐震化状況（浄水場45.0%、配水池59.0%、管路8.3%）を勘案すると、地震発生により市域の施設や管路の被害が発生し、一部エリアにおいて断水に至る可能性がある。



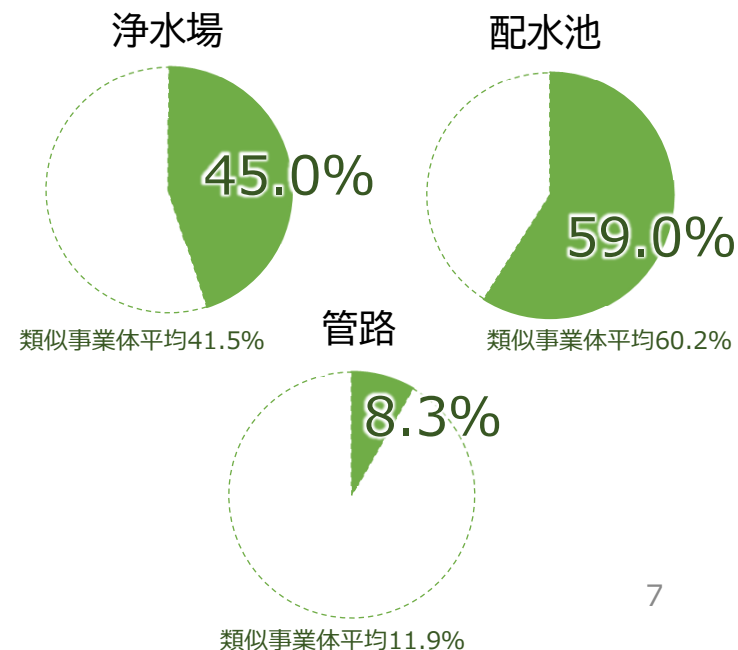
**基幹となる水道施設や断水影響の大きな施設へ至る管路等の耐震性能の向上が必要です。**

**地震被害想定に基づく事後対策（応急給水・復旧活動）の見直し・拡充が必要です。**

地域防災計画のける想定地震

想定地震	規模	最大震度
南海トラフ巨大地震	M9.1	震度5強
有馬-高槻断層帯地震	M7.7	震度6弱
六甲・淡路島断層帯地震	M7.9	震度6弱
山崎断層帯	M7.3	震度5強
上町断層帯	M7.5	震度5強
養父断層帯	M7.0	震度4以下
中央構造線断層帯	M7.7	震度4以下
三峠-京都西山断層帯	M7.6	震度5強
御所谷断層帯地震	M7.2	震度6強
市内伏在断層地震	M6.9	震度6強

施設や管路の耐震化状況（令和2年度）







# 目次

---

1

新水道ビジョンの位置付け

2

三田市水道をとりまく課題

**3**

**新水道ビジョンの基本理念と将来像**

4

新水道ビジョンの施策体系

# 3

## 新水道ビジョンの基本理念と将来像

✓ 新水道事業ビジョンの基本理念については、現三田市水道ビジョンとの整合を一定図りつつ、第5次三田市総合計画の基本目標（ひと・まち・さとが織りなす未来都市三田）、厚生労働省・新水道ビジョンの基本理念（地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道）を踏まえて設定する。また、将来像については、厚労省・新水道ビジョンで示された「持続」「安全」「強靱」の観点に留意しつつ、ステークホルダーであるお客さま・事業者・団体等に、三田市水道の施策の方向性を示すものとして理解しやすいように設定する。

- ➡ **基本理念：未来につなぐ「ひと」「まち」「さと」が織りなす三田の水道**
- ➡ **将来像01：強くしなやかな（強靱な）水道システムの構築（災害に強く効率的な水道システム）**
- ➡ **将来像02：人口動態を見据えた経営基盤の強化（人口減少に負けない持続可能な経営基盤）**
- ➡ **将来像03：ステークホルダーとの連携関係の深化（パートナーシップ【協働・共創】で取組む水道づくり）**

### 将来像



強くしなやかな（強靱な）水道システムの構築  
（災害に強く効率的な水道システム）



人口動態を見据えた経営基盤の強化  
（人口減少に負けない持続可能な経営基盤）



ステークホルダーとの連携関係の深化  
（パートナーシップ【協働・共創】で取組む水道づくり）

### 基本理念

#### 未来につなぐ

「ひと」「まち」「さと」が織りなす三田の水道

(Concept)

第5次三田市総合計画、厚労省・新水道ビジョンの基本理念/目標を踏まえ、「ニュータウンや既成市街地といった都市機能の集積したまちなか（まち）や、豊かな自然環境と里山の暮らしが残存する農村地域（さと）において、これまで綿々と築き上げてきた安全・安心な三田の水道を、お客さま、事業者・団体等（ひと）との協働・共創により、将来にわたり安定的に持続/継続していくこと」をイメージして基本理念を設定

# 3 新水道ビジョンの基本理念と将来像

## 将来像01：強くしなやかな（強靱な）水道システムの構築

本格的な人口減少社会の到来など、事業環境が大きく変化する中においても、将来にわたり安全で良質な水道水を安定的に供給していくため、地震・風水害等の自然災害や事故などに対する施設の機能向上を図るとともに、柔軟で効率的な施設運用ができる水道システムを構築します。また、水需要の減少に合わせた施設の再配置・ダウンサイジングなど、中長期的な観点から、施設規模の段階的な適正化を図ります。（主要KPI：施設耐震化率、管路更新率など）

### （今後10年間の主要な取組み）

- ・ 浄配水施設、管路施設の耐震化計画の策定
- ・ 水安全計画に基づく水源から蛇口までの水質管理の徹底
- ・ 災害対策マニュアル・BCPの策定
- ・ 水需要予測に基づく水道施設の再構築方針の作成 など

### 施策の方向性



# 3 新水道ビジョンの基本理念と将来像

## 将来像02：人口動態を見据えた経営基盤の強化

くらしを支えるライフラインである水道事業を、健全な状態で次世代に引き継ぐためには経営の安定性確保が重要となります。健全な事業運営を持続していくために、適切な財源確保とコスト削減・業務効率化による経営基盤の強化と、人材育成・確保等による技術力の向上により、安定経営を実現します。（主要KPI：料金回収率、経常収支比率など）

**（今後10年間の主要な取組み）**

- ・アセットマネジメント精度向上による更新計画の策定
- ・新技術(管路調査・スマートメーター等)の実証や導入研究
- ・人材確保・人材育成方針の作成 など

### 施策の方向性



## 2 新水道ビジョンの基本理念と将来像

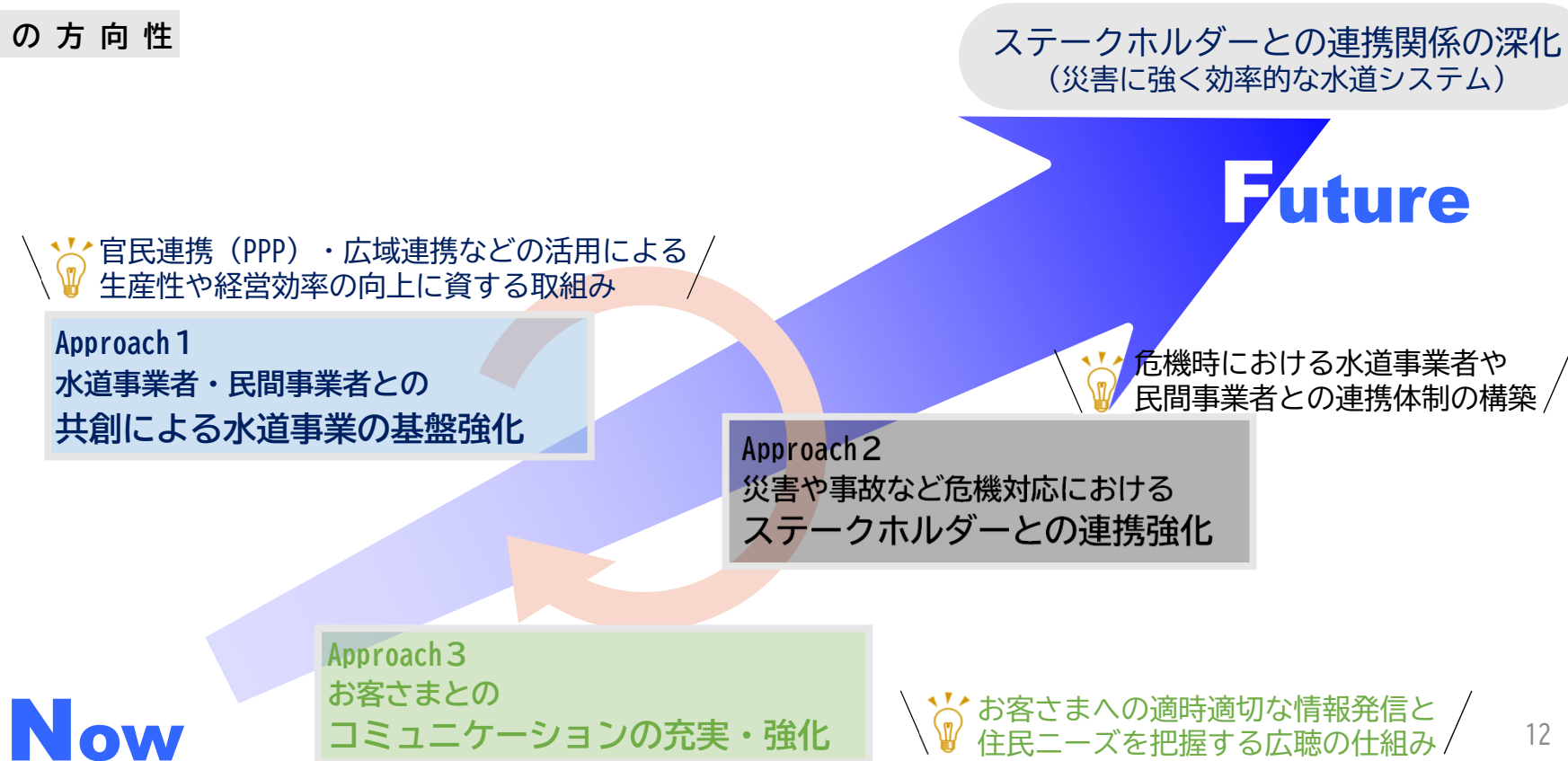
### 将来像03：ステークホルダーとの連携関係の深化

水道事業を取り巻く経営環境が更に厳しくなる中でも、安定した事業運営を継続していくため、官民連携（PPP）や広域連携の活用など、生産性や経営効率の向上に資する新たな手法について研究を進め、適宜、導入を図っていくとともに、お客さま、近隣の水道事業者をはじめ、水道事業に関連する多様な民間事業者との連携関係を一層深めながら、三田市水道が抱える様々な課題解決に向けて、各ステークホルダーと協働して取組んでいきます。

**（今後10年間の主要な取組み）**

- ・ 包括的民間委託方式の導入など官民連携による事業執行体制の構築検討
- ・ お客さまとの双方向コミュニケーションの仕組みの構築 など

#### 施策の方向性





# 目次

---

1

新水道ビジョンの位置付け

2

三田市水道をとりまく課題

3

新水道ビジョンの基本理念と将来像

4

新水道ビジョンの施策体系

# 3 新水道ビジョンの施策体系

## 将来像

## 基本施策

### 将来像01



**強くしなやかな（強靱な）水道システムの構築**  
（災害に強く効率的な水道システム）

本格的な人口減少社会の到来など、事業環境が大きく変化する中においても、将来にわたり安全で良質な水道水を安定的に供給していくため、地震・風水害等の自然災害や事故などに対する施設の機能向上を図るとともに、柔軟で効率的な施設運用ができる水道システムを構築します。また、水需要の減少に合わせた施設の再配置・ダウンサイジングなど、中長期的な観点から、施設規模の段階的な適正化を図ります。

### 将来像02



**人口動態を見据えた経営基盤の強化**  
（人口減少に負けない持続可能な経営基盤）

くらしを支えるライフラインである水道事業を、健全な状態で次世代に引き継ぐためには経営の安定性確保が重要となります。健全な事業運営を持続していくために、適切な財源確保とコスト削減・業務効率化による経営基盤の強化と、人材育成・確保等による技術力の向上により、安定経営を実現します。

### 将来像03



**ステークホルダーとの連携関係の深化**  
（パートナーシップ【協働・共創】で取組む水道づくり）

水道事業を取り巻く経営環境が更に厳しくなる中でも、安定した事業運営を継続していくため、官民連携（PPP）や広域連携の活用など、生産性や経営効率の向上に資する新たな手法の導入について研究を進めるとともに、お客さま、近隣の水道事業者をはじめ、水道事業に関連する多様な民間事業者との連携関係を一層深めながら、三田市水道が抱える様々な課題解決に向けて、各ステークホルダーと協働して取組んでいきます。

基本施策  
01

お客さま志向の良質な水道水質の実現  
（安全・安心・おいしい水）

基本施策  
02

自然災害や事故などの危機時においても強い水道システムの構築

基本施策  
03

自然災害や事故などの危機時においても給水を継続できる体制の構築

基本施策  
04

将来の水需要を見据えた水道システムの再構築  
（再配置・ダウンサイジング）

基本施策  
05

アセットマネジメントによる施設更新費用の縮減  
（ライフサイクルコスト（LCC）の最適化）

基本施策  
06

ICT等の先端技術を活用した業務改善・お客さまサービスの向上

基本施策  
07

将来の水需要を見据えた堅実かつ効率的な財政運営の推進

基本施策  
08

水道事業を支える人材の確保・育成と組織体制の強化

基本施策  
9

お客さまとのコミュニケーションの充実・強化

基本施策  
10

災害や事故など危機対応におけるステークホルダーとの連携強化  
（パートナーシップ）

基本施策  
11

水道事業者・民間事業者との共創による水道事業の基盤強化  
（広域化・PPPなど）